

Title	育和会記念病院便り
Author(s)	芝, 茂
Citation	癌と人. 10 P.6-P.8
Issue Date	1983-03-30
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/24096">http://hdl.handle.net/11094/24096</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 育和会記念病院便り

理事 芝 茂\*

大阪の生野区に、がんを専門に診療する、医療法人「育和会記念病院」が開設されてから、早くも、半年が経過いたしました。

しかし、いまだ、当院設立の主旨やその性格を十分ご理解いただいておられないむきも多いかと思っておりますので、その概要と当院運営についての私の考え方を申し述べ、この半年間の歩みを病院便りいたします。

がんは、いまや、わが国死因の第1位を占めるようになり、加えて、最近の環境変化や、加速しつつある国民の高齢化を考えると、がん患者の数も年々増加することと思われま

す。従って、がんの問題は、わが国にとって、単に医療上の問題のみではなく、社会問題としても、看のがすことのできない重大な問題であります。

国や地方自治体におきましても、つとに、この問題を重視され、がんへの対策を鋭意推進、強化してこられました。が、いまだ十分とは言えない状態です。

この上は、これら国や地方自治体の施策に呼応して、民間活動としても、できるだけ早期に、がんの専門病院の設置が望まれるのであります。

当育和会記念病院の設立は、実に、この要望に答えようとするものに外ならないのであります。

ただ、このような場合、是非とも考えておかねばならないことは、民間事業としてのがん専門病院の経営、運営ということは、言うべくして、そう簡単なものではなく、あらゆる意味での困難も多く、満されねばならない数多くの条件が付随するということでもあります。

とりわけ、基本的に重要な、しかも最大の難事は、この種病院の基盤となる優秀ながん専門

医を、どのようにして、常に確保し続けるかということでもあります。そのためには、人材補充の推進母体として、大学など、がんの診療を専門的に研究する機関と緊密な関連を保つ態勢づくりが絶対に必要であろうと思

います。幸いにも、当院は設立以前から、大阪大学微生物病研究所付属病院外科、神戸大学医学部付属病院放射線科、兵庫医科大学付属病院第4内科などの深いご理解とご指導を賜り、開設に当っては、希望通りの秀れた専門医を、正規の手続を経て、ご割愛願うことができました。

開院後には、阪大病院整形外科、皮膚科とも、それぞれの骨腫瘍や皮膚がんの診療について、ご協力をいただけるようになりました。

さらに、子宮がんの診療を中心とした婦人科の新設にあたっては、近畿大学医学部付属病院産婦人科の全面的なご協力とご援助を賜り、去る10月14日以来すでに診療を行っております。

このように、当院は、いまや、がんの専門病院としての内容のある程度、いや、相当高度に満し得たものと自負しております。

そして、職員一同この誇りと責任を深く胸に秘め、日々誠実をつくしてがんの診療に専念しております。

そして、病院設立の主旨を一日も早く具現するよう努力して行く積りであります。

なお、当院は本来のがんの診療業務のかたわら、病院の事業として、「大阪がん懇話会」や、「がんの講演と映画の会」を計画し、すでに実行にうつしつつあります。

大阪がん懇話会は地域のがん診療成績の向上に少しでもお役にたてばとの考えから発足したものであります。

当育和会記念病院と、財団法人「大阪癌研究

\* 育和会記念病院長

会」が共催し、生野区医師会の協賛、讀賣新聞大阪本社の後援を得て、春秋2回開催することにしております。

この会の運営は、がん研究の先端に行く問題から、日々のがん臨床で、私どもが遭遇する実際的な問題まで、巾広い範囲で、その時々によさわしい、基礎と臨床の話題を一つづつとりあげ、その方面の研究の第1線に活躍しておられる方、そのことにとくに造詣の深い方をお招きして、お話しを承ることにしております。

そして、決して固苦しくならないようにし、なごやかな雰囲気の中で、気楽に質疑応答を重ね、楽しい話し合いの中で、新しいがんの知識が得られるようにして参りたいと思っております。

すでに、本年度は予定の2回を、7月24日と11月13日に終えましたが、近くの方はもちろん比較的遠方からも、思ったより多数の参加者があり、盛会裡に終えることができました。

いま一つの、がんの講演と映画の会は、地域の方々のがんに対する知識を少しでも高め、識らざるがための不幸を少しでもすくなくしたいとの思いから計画したものであります。

これも春秋2回は開く予定でおります。

しかし、今年はいろいろの都合で、生野区保健所が行っておられます地区婦人団体の衛生教育の一部をお手伝いするという形で、乳がんの話は11月16日当育和会記念病院を会場に行いました。

これら2つの事業は、さ、やかなものではあ

りますが、がん制圧のための一つの地域運動として、永く存続させて行く積りであります。

そのほか、当院は、財団法人「大阪癌研究会」と相携え、同研究会が事業の一つとして行っているがんの検診活動にも関係し、とくに、その精密検査部門を担当しております。

大阪癌研究会が現在行っている集団検診（集検）は乳がんと大腸がんの2つであります。

それらの集検の結果、精密検査（精検）を必要としたものについて、当院の行った成績をのべ、ご参考に供したいと思えます。

まず、乳がんの集検（微研方式）成績をみますと、表1のように、松原市（1,673名）、藤井寺市（315名）、河南町（222名）の集検で、精検を必要としたものは、それぞれ、45名、16名、4名でありました。

それらの人々について、精検の順序に従い、マンモグラフィー（乳房のX線検査）、エコー検査、とくに疑わしいものには、乳房のシコリを摘出し、組織標本をつくり、顕微鏡的に検査しましたが、松原市で2名の乳がん患者が見出されています。この2人の方は、この検査を受けるまで本人は気づかずにおられ、集検で初めてみつけれられたものであります。

お2人とも、すでに、手術を受けられましたが、あのまゝ気づかずにおれば、大変なことになっていたと思われま。

藤井寺市の集検でも、組織検査の必要があると判定された方が、表のように2名ありました

表1 乳がん集団検診成績

実施	育和会記念病院（昭.57.8.1～昭.57.10.15）		
	松原市	藤井寺市	河南町
受検者総数	1,673名	315名	222名
要精密検査者数	45名	16名	4名
マンモグラフィー受験者数	42名	13名	4名
エコー検査受診者数	16名	6名	4名
要組織検査者数	4名	2名	1名
組織検査受診者数	4名	0名	1名
検査結果			
が ん	2名		0名
乳腺症	0名		1名
線維腺腫	2名		0名

が、このお2人は当院では検査をしておりません。何処かで是非検査を受けなければいけないと思っております。

つぎに大腸がんの集検であります。大腸がんは近年著しく増加しており、一般の注目を受けているがんであります。

今日、治療されている大腸がんの90%は、発見のおくれた進行がんであるといわれており、早期発見が望まれております。

阪大微研の外科では、相当以前から、便の潜血反応を検査する方法（阪大微研方式）で集検を行い、早期発見に努力しております。

大阪癌研究会や当院も、それに準拠して集検しておりますが、当院での成績は表2のようであります。

表2 大腸がんの便潜血反応による集団検診成績

実施	育和会記念病院（昭.57.8.1～昭.57.10.15）
検便総数	1,645名
要精密検査者数	126名
精密検査内訳	
直腸鏡検査件数	126名
注腸X線検査件数	61名
食道、胃、12指腸X線検査件数	37名
精密検査により発見された病変	
大腸ポリープ	5例
直腸ポリープ	3例
肛門ポリープ	1例
大腸憩室	11例

検便総数1,645名の中、精検の必要ありと判定されたものは126名でありました。

精検の際、大腸ポリープと直腸ポリープについては、すべて組織検査も行っていますが、がん患者は1人もありませんでした。

以上、育和会記念病院の設立の主旨、性格、事業等をふくめて半年間の歩みのあらましを書き綴りましたが、病院が本格的に作動するのはこれからだと思っております。

当院では、「私たちの目標」として、

- 1) 進む医療に遅れないよう、学問的な診療に徹しよう。
- 2) 病気を治すだけの病院ではなく、病人を治す病院になろう。
- 3) お互に助け合い、ゆずり合い、職場を平和で楽しいものにしよう。

という3つの目標をかゝげ、職員一致協力して頑張っております。

皆さんのご指導、ご援助をお願いします。

